

第 19 回 福事研研究大会

平成 29 年 12 月 14 日(金)、福岡市の都久志会館大ホールで、第 20 回福事研研究大会を開催しました。今年度は、「子どもの豊かな育ちをめざして、学校経営ビジョンの実現に貢献する学校事務」を大会テーマに掲げ、午前中は記念講演として民間人校長として活躍されている、奈良市立一条高等学校 校長 藤原和博氏の講演、午後は会場を三つに分け、それぞれのテーマで分科会を開催しました。

当日は福岡県教育委員会 野中 顯人事管理主事をはじめとする来賓の方々、県外からの参加者(107名)、会員及び県内教育関係者を合わせ601名の参加申し込みをいただき盛会のうちに終了しました。また今回の研究大会に対して全事研及び九州各県事研からお祝いのメッセージをいただきました。お礼を申し上げます。

◆ 川原通央会長挨拶

第 20 回福事研研究大会に多くの方に参加いただきありがとうございます。本日は、県外から参加の107名の方を含めて、合計で600名を越す方々に参加いただいています。



また、日頃よりご指導、ご支援いただいています、ご来賓の皆さま、公務ご多忙中、出席いただき、感謝申し上げます。今回は、この大ホールの収容人数を超える参加者となりましたので、初めての試みとして、4階の会議室をサブ会場として準備し、午前中はそちらに中継で全体会の様子を流しています。

さて、みなさんご存じとは思いますが、先日の中教審答申、いわゆる「チーム学校答申」などで、学校事務職員に対する期待が大きくなるなか、学校教育法が改正され、事

務職員の職務規定が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」になりました。

また、現在、中教審で検討が進められています「学校における働き方改革」、間もなくでる中間まとめで、国としての「緊急対策」も出されると聞いていますが、それをふまえて中間まとめの案の中でも、学校運営上の様々な場面への事務職員の関わりが求められています。

これまでになく、学校事務職員への期待が大きくなって、今のこの流れにのっていきのが大事なことだと思っています。ただし、今日の午後の分科会でも議論になるかと思いますが、事務職員にもいわゆる「働き方改革」は必要となります。教員の負担軽減ばかりで、事務職員としては、不満もあると思います。

しかしながら事務職員の定数が増えてから考えようとか、今の仕事量が減ったなら行動を起こそうとか、そういう受け身の姿勢では、今のこの波に乗り遅れることにもなりかねませんし、民間で言えば私たちの顧客ともいえる「児童・生徒たち」にその間、教育現場の改善を待ってもらおうということにもつながるのではないのでしょうか。

「従事する」から「つかさどる」へ、『新たな学校事務』と言いましても、必ずしも今以上に仕事量を増やすというイメージではありません。現状の共同実施から新たな共同学校事務室へ移行し、今以上に組織的な事務を行うことで、整理できる部分を作り出し、そのうえで「つかさどる」業務内容にシフトしていくというイメージです。

福岡県でも、政令市への給与負担移譲を受けて、北九州市、福岡市では共に新しい学校事務へと変わってきていると聞いています。また、政令市を除く県教委管轄では、昨年度より設置された「学校事務機能強化検討会議」において、今後の学校事務についての検討が進んでおり、来年度からは具体的な取り組みもスタートしていくと思っています。

この間、いくつかの研修会等で、そういった今後の学校事務の在り方等について、話しをしています。多くの事務職員の方の興味関心は、そういう話よりも、給与事務等の研修「実務研修」のほうに向いているように思われます。目の前の仕事をどう処理していくか、それに追われるのも無理はないと思いますが、たとえば、その給与事務、あと何年、今と同じような処理を続けていると思われませんか。政令市のように総務事務センターが入れば、そこが給与事務のほとんどの処理を行うようになります。そうなったら給与事務の書類作成に詳しくても、そのノウハウは、今後あまり必要のないものとなると思います。

みなさんご存知のように、学校事務という職業は、近い将来、人工知能・AIに、とって代わられると言われていきます。そういう状況の中で、これからの学校事務の在り方について、事務職員内部だけでなく、様々な考え方・意見を出しあって検討しながら、この後の特別講演でも講師の先生からお話がありますが、正解のない時代の中でみんなが折り合える、納得できる答えを早く出して、前向きな取り組みを、早急に進めていく必要があると考えています。

最後に、学校事務にとって大きな変革の時を迎えている今、皆様の学校現場における実践により、「つかさどる改革」が進み、学校教育環境の充実、教育条件の整備がさらに進むことを期待します。

#### ◆ 野中人事管理主事（県教委）

皆様をご承知のとおり、国においては、学校事務職員が主体的に校務運営に参画するよう職務規程の見直しや共同学校事務室の設置などについて法改正がおこなわれ、平成 29 年 4 月から施行されています。



また、本年 8 月の中央教育審議会の学校における働き方改革に関する緊急提言では、国及び地方公共団体においては、事務職員の職務規程が見直された趣旨を踏まえ、副校長、教頭、教員と事務職員との間で、業務の連携や分担のあり方を見直すなど、事務職員を活用することで、事務機能の強化、業務改善の取り組みを推進するよう務めることとさ

れています。今後、教員と適切な役割分担を行いつつ、学校の組織としてのマネジメント力を高め、学校と地域をつないでいく学校事務職員の役割は、さらに重要となってきております。

また、本県では学校機能検討会議において、市町村立学校の学校事務職員の専門性と校長のリーダーシップを支点とした、学校の業務改善をはかるための方策等を検討調査検討しているところです。

今後も学校事務職員の皆様方、また、各市町村教委のご理解を頂きながら、事務機能の強化に積極的に取り組んでいく所存でございます。

#### ＜出席いただいたご来賓＞

福岡県教育庁教育企画部教職員課 人事管理主事 野中 顯 様
福岡県小学校校長会 幹事長 小森 晃 様
福岡県中学校校長会 幹事長 渡部 保介 様
福岡県教職員互助会 専務理事 池上 利之 様
日本教育公務員弘済会福岡支部 支部長 亀岡 靖 様

#### ◆ 記念講演

「10年後、君に仕事はあるのか？」

～子どもたちの未来を拓くために～

奈良市立一条高等学校校長

教育改革実践家

藤原 和博 氏

今日、私が皆さんと共有したいと思っているのは、この10年、そしてここからの10年は、今まで来た100年ぐらいの変化が一気に来るとも言われています。子どもたちの様子



もちろん変わるはずですが。それから何より我々がやっている仕事です。学校事務の仕事を含めて全ての仕事が、教員の仕事も含めて絶対に変化・変質していきます。それを前向きに捉えていただき、これから頭をやわらかくすることが非常に大事なので、情報処理力はベースとして、正解がない課題に対してどういうふうに自分で仮説を見いだ

して次の展開を考えていくか、あるいは、開けにくい局面を開けていくか、そういう情報編集力と頭のやわらかさがすごく大事なのです。それを今日かつちり掴んでいただき、さらにどういう練習をするとその頭がやわらかくなるのかという、そこまでの実感を掴んでいただければなと思います。

今日の話は、先ほど言ったようなことで情報処理力から編集力へ。そうすると10年後にも通用する力が身につきますよという話です。

早速ですが、最初この導入から入ります。「これから10年、最大の社会変化は何か」実は一条高校で私が入学式で、去年も今年も最初に新入生と保護者に問いかけた、テーマです。皆さんのところの学校で、校長が入学式とか卒業式とか始業式、終業式、誰も聞いてないようなこの祝詞、「こういうのが大事です」みたいな感じで、教訓を話す人が多いです。でもほとんど、子どもたちには残らないのです。その証拠に、中央研修で校長先生全員に聞いてみました。「あなたが今いろんな挨拶をしていると思いますが、自分自身が小学校、中学校、高校といろんな校長の話聞いていて、1個でも覚えていることがある人」ということで手を挙げさせますと、200人いて4、5人です。いかに印象に残っていないかですよ。やはり世の中の変化とのブリッジを架ける役が、本当は校長の役であるはずですから、世の中で何が起こっていて、それから学校で勉強している、その間の架け橋を架けるような問いかけを多数発して、小学生であつても意見を聞かなければ駄目だと思います。これからはもっと意見を聞かないと駄目です。

だから今日は授業のように進めますし、皆さんが主体的、協働的に深く考えられるように、この1時間半の中で5回～7回返して、皆さんが自分のこととして考えられるような授業にしていきたいと思います。

アクティブラーニングというのは聞いたことありますよね。一応日本語では「主体的、協働的な深い学び」というようなことで、その見本を示してみたいと思います。

ここから10年。最大の社会変化は何でしょうか。思いつくのが、高齢化だったり少子化だったりするかもしれないのですが、できたら世界中が巻き込まれるような社会現象で、どういうのが一番大きいかというのを少し考えていた

だきたいのです。それで、3人～5人で組んで顔を合わせていただいて、一番大事なのが二つあります。人が言った意見を絶対つぶさないこと。もう一つは、1周目、2周目ぐらいはもう、とにかく馬鹿な意見から言う。絶対そんな起こりそうもないことでも良いので、ほかの人が「何言っているの」「アホじゃないの」みたいな感じで、スルーされるようなことでもよいです。要するに、最初に正解を見落としますと頭やわらかくなりません。ろくなもの出ないから。年上の方が正解っぽいことを先に言っていると、若い人は絶対に意見を言いません。「そうだよね」「なるほどね」みたいな「いいじゃん、それで」と、殊更何かこう波風立てたくないし、それで何か余計なことと言って叱られたくないし、それ以上の何かいいことを言えって言われても困るからということで、実際、こういうブレインストーミングというのですが、知恵出しの会議をやるときには、本当は上司あるいはリーダーの人は、最初に馬鹿なことを言ったほうが、若い人たちが「それぐらいいいのね」と気楽になり、脳がつながって良いアイデアが引き出されるわけです。知恵を出す会議、事務のチームでやることはそんなに多くはないかもしれませんが、今後、知恵を出そうというときには、この二つ、人の意見つぶさないこと、先ず馬鹿なことから言うことをちょっと覚えておいてもらいたいと思います。

なぜそうなのかという  
と、いい知恵を出すためには、佐藤さん、鈴木さん、田中さんが、自分で考えたことや独り言を言い合っている  
だけでは、これプレストでは



ないのです。これだったらやらないほうがましです。そうではなくて、佐藤さん、鈴木さん、田中さんが意見を言った、佐藤・田中・鈴木脳というのができて、それでお互い刺激し合い、お互いの言葉に刺激されながら、0.2秒前には考えてもみなかったようなことが引き出される化学変化が大事なので、これを是非そういう化学変化が起きるように、最初、馬鹿なことから言ってもらいたいと思います。

それではこれから10年、こんな変化があるのではないかと  
いうのも、いろいろ出していただいて、その中でメジャ

一になりそうなものを出してみてください。

このテーマについては、世界中の有識者の意見は、ほぼ固まっています。これが唯一の正解というわけではないのですが、納得できる答としてかなり最強なのは、今後10年間の間に、世界中の50億人がスマホで繋がることなのです。スマホでやるところがミソなのです。スマホで繋がることは、映像で繋がるということなので、脳が擬似的に繋がるということになりまして、50億人の人間の脳が並列コンピューターのように繋がる時代が来るわけです。しかもそこにロボットとAIが、繋がっていくという感じ。まず、脳が繋がるという感覚。これって、すごく大事なのです。あんまりピンとこない人いると思うのですが、実は、もうすでに世界の10億人ぐらいの脳が繋がる状態になっています。それはどういう意味かということ、10億人がスマホで繋がっている。ある象徴的な出来事ですよ。何だと思いませんか。

PPAP。要するにそんなに自然に撮られたものではなく非常に意図的に、ものすごい演出をされているわけなのですが、その1分間の動画がYouTubeに上がりました。日本では話題になっていなかったと思いますが、それが世界中で面白いということになって、ジャスティン・ビーバーが「いいね」をすると、立ちどころに世界巡り巡って1億人ぐらいが見て、その年のうちに何と紅白歌合戦に出たじゃないですか。こんなことありましたか。今までにないと思います。そんなルートから突如として新星が出てくるわけです。これで分かることは、これから歌だけではなくて、いろんなパフォーマンスやいろんな分野で起こること。要するにここにいる方々も誰一人対象者ではない人はいないわけで、何かここにいる方が、何かのパフォーマンスで、ふっとネットに上げたものが、世界中で話題になってしまう。あっという間にスターになるってことがあり得ることです。

天才が発見されるルート、世界中のいろんな領域での天才をいきなり発見してデビューさせる、そういう装置ができましたってことが言われるかもしれません。そのネットワークにAIとそしてロボットが繋がっていく。よく小学生、中学生、高校生のことをこれから将来、ロボットと共生する世代だとか言われています。全てのものがロボッ

ト化していくわけです。あるいはAIを搭載してセンサーも搭載していく。

それで、頭をやわらかくするためにちょっと考えていただきたいのですが、お掃除ロボ、これから5年10年するとどこまで進化するか、馬鹿みたいなことから発想して、こんなふうになるのではないかということをおみんなで共有してほしいのです。ブレインストーミングです。同じように馬鹿みたいなことからガンガン言って、笑ってよいので。本当にあり得ないこと、もう絶対不可能なこともよいです。あのお掃除ロボがどこまで5年10年で進化するか。私が今冗談みたいに言って皆さんが笑うことは、ほぼ実現します。それをやるかどうかは別。あるいはコストがどれぐらい下がるかは別なのです。今の技術でほぼ全部できます。そういう世の中に未来にみなさんが暮らすことと、もう今とはつながっています。今とつながっているの、そういう世の中に暮らしているわけです。

そういうときに、仕事はどうなるのっていう話です。少し前までは未来というものを何で感じたかということ、コンクリートと鉄ですよ。目の前に例えば高速道路ができて、車がバンバン走るようになるとか、でかい建物が建つとか。あるいは、すごい大きな客船が周航する、飛行機が飛ぶ、新幹線がどんどん大きくて速くなる。コンクリートと鉄による未来というのが示されました。だから、そういう現物の夢がすごく分かりやすかったのですが、今の子どもがちょっとかわいそうなのは、全ての建設のうち半分ぐらいがネットの中で起こって、ネットの中に都市が構築され、そこで都市サービスが提供されています。ネットの中で起こってしまうので、高速道路ができた時、あるいは橋がドーンと架かったときの「おおー」みたいなのがないわけです。なかなか今の子どもたちが、夢を持ちにくい原因になっています。更に言うと、例えばIPS細胞でも、ナノテクノロジーでも、要は最先端の技術がみんな見えなくなっているから、今の子どもは大きな夢を持ってといってもすごく難しいということが言えます。もう一言だけ触れておきますと、この社会は半分の建設がネットで起こるようになるとい



うふうに言いましたが、ということは、間違いなく今の子どもたちは、半分の人生をネット内で過ごすことになると思います。今でもビジネスマンで、結構真面目にビジネスをやっていますと1日の半分はネットの中にいます。そうならざるを得ないのです。要するに人とつながる仕事をするとすることは、国際的にネットの向こうの人と仕事をすることになるので、できる人であればあるほどそうなります。そんな社会になるということを、皆さんお分かりだと思います。

だとすると、半分の建設がネット内で起こるということは、こっちのリアルな社会の、例えば事務処理だったりあるいはリアルワークだったりというのがなくなることが分かりますね。では、そこでなくなる仕事、なくなりにくい仕事、新しく生まれる仕事というのを考えてみたいわけです。

これからプログラミングはものすごく需要が増えますし、だから指導要領で今回はなるべくプログラミングを教えるみたいになっていて、恐らくこれが必修化されて教科になる、もしかしたら、10年はかからないと思います、それを評価、教科化されることになってしまうのではないかとこの感じはあります。個人的にはプログラミングは全員に合うわけではないので、全員必修はやめたほうがよいと思っていますが、ただ、小学校の段階で一回教え、もしかしたらふだんの成績優秀児ではない軽度発達障害の子のうち、自閉症スペクトラム（昔はアスペルガー症候群）の子がものすごく才能を発揮する可能性があり、全員にやらせておいて、特に軽発達障害の子のうちそちらの才能のある子を取り出して、天才教育をやるとするのは、そういう子にスポットが当たるよい機会になるかもしれないと思います。小学校の方はご存じかもしれませんが、今回の指導要領の変更で、6年生に本来中学でやっていた統計が下りてきました。なぜ下りてきたかというのはそういうことなのです。統計がこれからすごく大事になるから。データをさわられる人が大事になるから。そういう仕事は増えます。それを先に押さえておいてください。

では、なくなる仕事、なくなりにくい仕事を考えていき



ます。その中で当然、教員はどうなの、学校事務はどうなのと、是非考えてもらいたいと思います。

最初なくなる仕事に思いをはせたいのですが、一番典型的なのは、駅の改札です。改札で物理的に切符を切っていた時代があります。駅の改札が典型的でしたが、これからはどんどんいろんなところで起こります。

では、次にどこで起こるのか。どういう仕事がなくなりやすいと思うかです。これについては、いろんな新聞でも発表になったと思います。オックスフォード大学と野村総合研究所でやった研究が有名で、あるいはハーバードほかいろんな世界中の大学の研究機関が出しています。結構トップランクに近いところに上がっているのが、レールの上を走る電車の運転士は、必要ないのと、もうロボット・AIでよいのではないのということがすでに出ています。例えば東京に行かれた方は、お台場に行くゆりかもめというモノレールの運転士は開業当時からいません。これはかなりリアリティがあります。

それでは今度は、なくなりにくい仕事というのを考えてもらいたいです。なくなりにくい仕事を本当に真剣に考えてみるとどうことが分かるか、結局、それを本来人間がやるべき仕事をあぶり出しています。もっと言うと、ロボットやサイボーグと比べて、人間とは一体何なのかという本質にまでいけます。だから、私が20年やっている「よのなか科」の授業だと、この問いかけは相当しっかりやるわけです。

例えば付箋を配り、一つの仕事を思い浮かんだら、その付箋1枚に一つの仕事を書きます。なくなりにくそうな仕事をとにかく書きます。それを5人ぐらいで持ち寄り3~40枚になり、それを白い紙に、貼り込んでいくわけです。貼り込んでいくときに、軽いKJ法で今度やりますが、同じものを書いたら上に貼り、近いと思ったら近くに貼って、遠いと思ったら遠いところに貼っていく。例えば、看護師はなくなるというのが出てきて、介護もっと出てきたら近いのではないですか。更に保育なども近いかもしれないですね。でもさっきの列車の話で車掌が出てきたら遠い。それは遠くに貼る。そういうことをやっていくと、結局グループができます。グループができたらそれに名前をつけていく。さっきの介護、看護、保育だったらどうい

う名前がつか分かりませんが、ネーミングをするわけです。一つだけその前に触れておきますと、高度に知的な仕事はなくなるのではないかとされる方がいますが、実は医者とか弁護士が、先ほどのオックスフォードの調査でもかなりトップランクに近いところに出てきます。弁護士でも人間と人間のセッションみたいなことは残ると思います。その背後で、この判例を調べるみたいな、事務所でするような仕事は、当然AIが一番得意なわけでそれはなくなるでしょう。だから、弁護士の仕事でさえもそうなので、要するに全ての仕事がそのようにAIのロボットが入っていくことで変質していくわけです。なくなるかどうかは分かりませんが、変質はしていきます。

医者の仕事は、ちょっと面白いので話しておきますと、医者の仕事には診断と治療ありますが、治療は、人間としてやるべきことがたくさんあると思います。診断については、私が肺がんを疑われ病院に行くときです。データを一瞬にして世界中の多言語で、全部のデータベース全部の症例に照らし合わせて、一番近い例がどんな治療をしたらどうなったか、どのような薬の投与をしたらどうなったかということ、調べるということをやってほしいです。これが得意なのがAIです。だからもしかしたらそれが別料金で100万円と言われても、自分の命に係わるのでしたら払うかもしれないし、1,000万でも自分の子供のことでしたら、金を借りても払うと思うのです。ニーズは絶対にあります。実はアメリカではIBM社のワトソンというコンピューターがもうすでに、実戦配備されて、がんの診断での分野ですが実績を上げています。そういうことで、高度の知的な仕事でも、ある知識を調べればよいという処理力側の仕事だと、どんどんAIロボットに代わっていきます。

では、逆にそれからなくなりにくい仕事というのは、どういう仕事をいうのでしょうか。少し面白いから皆さんにこれを議論してもらおうと思っています。

運転士はさきほど、なくなると言いましたが実は、JRの偉い人に聞いてみたところ、ローカル線でも今はほぼ自動運転だ



そうです。もうほとんど運転士が判断しないそうです。最後ストップする時とスタートする時のスイッチのオン・オフだけしかやらなくて、スピードコントロールから何でもほぼ自動運転になっているらしいのです。なぜ人がまだいるかというと、何かあったときに責任を取らせるためにいるらしいのです。要するに誰もいないと、結局その責任を取らせる人がいなくなるから。安全弁として配置されているという、すごい話だと思いませんか。それで車掌はどう思いますか。運転士がいなくなっても、ゆりかもめにも車掌はいますよ。なぜいるのか。車掌は、10年後いるのか、あるいはロボットに代わってしまうのか。ここを議論してもらいたい。これを議論することで、もし車掌が10年後にもいると言われるのであれば、それはなぜかでしょう。車掌の持つある機能とかある面がロボット、AIに負けない面なのです。というところがきっと人間の仕事として残るというところに結び付いていくので、車掌の仕事がどうなるか。もし不測の事態が起こったときに、ロボットが対応するのは相当苦しいと瞬時に思いました。要するに不測の事態が起こる、想定外の事態が起こる、また板挟み問題みたいなことは、プログラミングしていくことが難しいと思うのです。ケース別にそれぞれの単機能のロボットを配置するということになる、ものすごいコストがかかるし、そういう意味で判断業務は人間にやらせたほうが、コストが安いということもあり得るのではないかと。あるいはより創造的である情報編集側の仕事になります。想定外のことへの対処、あるいは板挟み問題で、仮説を作ってどんどん解決していくみたいな、そういうことがロボットに負けない仕事のような感じが、ヒントになるかと思います。

一応、ここで三つぐらいちょっとヒントを、ロボット、AIに負けない仕事のヒントをちょっと差し上げておきます。

日本でいう影絵の文化みたいなこの手の動きは、最先端のロボット技術者が10年かけても無理だと言っていることなのです。腕の筋力や足の脚力は、置き換えられて今はサイバースーツやパワースーツがあります。ところがこの人間の指だけは、横にも斜めにも動いているので、指を組むなんてロボットには、ほぼできないということで、こういうところから手先の工芸はなくなるし、それからこ

れの手の温かみ、なでると癒されるみたいな意味で保育だったり、介護だったりはなくならないでしょう。それから、もしかしたら医者よりも看護師のほうが残ると言われています。今は医者が偉そうに看護師に命じていますが、逆転する可能性があるかもしれません。医者の経験や知識というものがどんどん置き換わって、人間としての優しさだったり思いやりだったり、存在そのものが癒しみみたいな、そういうのがクローズアップしてくる。つまり基礎的人間力の上に、我々は学校へ行って情報処理力を高め、実社会の中でいろんな経験をしながら情報編集力を高めているわけです。これが生きる力の逆三角形というものなのですが。ロボット、AIが支配的になっていけばいくほど、多分この基礎的人間力のほうがもっと力としてクローズアップしてくるということが絶対に言えます。

もう分かったと思いますが、ロボット、AIが奪っていく仕事っていうのが情報処理側の仕事です。それでこちらの情報編集側が、知恵を出していき、インスピレーション、イマジネーションを大事にして、正解がない問題に対して仮説をどんどん出し、それで試行錯誤の中で解決していくという、そちらの脳のモードが強い人は絶対生き残ると思います。左から右に高速処理をしているだけの人は、恐らく10年後には生き残っていないかもしれないという感じですか。

ここで、皆さんは学校教育を受けていますが、日本の学校教育は、ものすごく大きな問題を抱えています。その問題を一瞬にしてあぶり出す、ちょっとある実験にちょっと参加していただきたいと思うのです。白い商品、白いものを黒くしたら売れるもの議論します。皆さんの頭の中には、何か考えはあると思いますか。学校では今この瞬間も、次のような問いかけを先生がしますよ。小学校、中学校、高校と恐らく皆さんも何千回、何万回とこういう問いかけをされたと思います。そのとき皆さんはどのように反応できるのか、できないのか。ちょっと体験してみてください。

「みんな、白い商品を黒くしたら結構よいのではないかなというのを、考えてもらいましたよね。みんな考えがあると思うのですが、それでは、分かる人」「意見がある人」  
見てください。「しーん」ですよ。これが、この瞬間で

も3万数千校の学校で残らず起こっています。「分かります」これ、なぜだと思いませんか。考えがないわけではないのですよ。けれども、「分かる人」というふうに先生、聞くではないですか。そうすると「分かる」というのは、正解を問われたと思うから、正解が必ずしも当たっているとは限らないから答えないのです。更に「意見ある人」って言われても、特に例えば男の子なんかは、フルセンテンスで何か言える自信なければ言わないですよ。「分かります」ということ。つまり40人の教室の中で、こういうふうに「分かる人」とか「意見ある人」とか「質問ある人」って言われても、大抵は小学校から手を挙げ慣れている成績優秀児5人と目立ちたがり屋の3人。あと32人は脳が止まっているわけですよ。脳が止まっている、その時点でこれが日本の一斉授業の最大のデメリットなのです。これを超えないと思考力、判断力、表現力なんて聞いてあきれます。思考するようにはならないと思います。

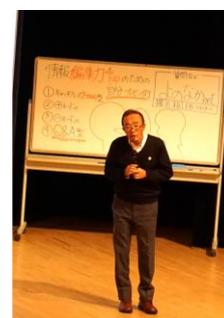
では、どうしたらよいのでしょうか。ここから先、未来の授業ですよ。未来の教室。こういうことをやってみたいと思います。

私が「どうぞ」と言ったら自分の考えを私に対してつぶやいてみてください。できたら大きめのつぶやき。後ろのほうの人は叫ぶような感じ。そんなに長ったらしく、わいわい言わないで。これをやったらよいみたいなものが、これを黒くしたらよいのではないのっていう、自分なりの意見です。とにかく言ってみて下さい。これがそろそろわけないですよ。バラバラでよいのです。前後左右の人が何と言おうと気にせずと言ってみてください。

「白い商品のうち、白い商品が常識だっていううち、黒くしたら面白いと思うものを一つ挙げてみてください。」

実際まな板は本当に鋭いのですが、黒いまな板が発売されてヒットしました。私のシェフの友だち

がいますが、使っていると言っていました。白系の野菜、玉ねぎや大根がすごい速く切れる。けがもしなしははっきり見えるから。あるいは耳かき、綿棒を黒くしたら見える感じとか、珍しいところではトイレトペーパーですね。ト



イレットペーパー黒くしたら高級感が出て売っています。

実はこういうことです。全員に一斉に答えさせれば、全員の脳が活性化したままです。これがアクティブラーニングなわけです。要するに「分かる人」と言った瞬間に、もうそれアクティブラーニングじゃないです。思考力を止めているようなものです。

一条高校では、世界で初めて個人のスマホ、生徒たちは個人のスマホを学級に持ち込み、Wi-Fiでつないで授業にそれを使わせています。そして、G-Learningというソフトを使って、今考えたことを打たせます。メールみたいに。そうすると送信ボタンを押した途端に、パッとプロジェクター画面に並びます。40人の意見が。あるいは質問が。例えば、茂木健太郎さんに授業をしていただき、授業が終わった後に「はい、質問がある人」って言うても出ないので、そのときに質問を出そうと思ったら、生徒に仕込んでおくみたいなことをやると、スマホから打ち込めます。G-Learningのシステムがよいのは、無記名だから。意見だけが並ぶので誰が打ったか分からないから、だから極端な意見や質問、あるいはちょっと失礼な質問も全部出てくる。学校って下手をすると全ての授業が道徳の授業に、要するに先生の左右の領域からはみ出ないようにと子どもたちが気を遣って答えます。おかしいですよ、それでは、ディベートにならないし、一条高校の「よのなか科」では、自殺あるいは安楽死の是非です。これもこの場でやっても、答えなんて出ないですよ。そういうことです。例えば、茂木さんにどんな質問が出るかという、「茂木さん、すみません。その髪は毛天然ですか」みたいな。私も親しい仲でも、聞けないことも。「子育てしているのですか」とか「結婚しているのですか」というような、そういう質問を茂木さんが自分でつまんで、面白がって答えながら深い質問にも答えていく。その中に結構面白い質問があった場合、例えば「これは誰が聞いてくれたのかな」って聞きます。そのとき手が挙がれば、その子を指せばよいですし、手が挙がらない場合は、次にもうスルーしていけばよいわけです。という感じで、議論がどんどん深まる。圧倒的に今の子は、手を挙げさせたり、ワークシートに書かせるより、スマホから打ち込ませたほうが、自己開示が図られます。なぜかっていうと、もうLINEは100%やっているし、SNS

もやっている子は多いから、自分の今の状況や今の思いを打ちこみ慣れているのですよ。こういうことをやらせるところで、面と向かったコミュニケーションが阻害されるといふ馬鹿がいるけれど、全然違います。まず自己開示させておいて、それでそろったらコミュニケーションを深めていけばよいのです。今の子は、スマホが完全に一体化していますので、脳と直接直結しています。いちいち我々みたいに打つなんて感覚ではないですよ。だから、40人で6行を全員に打たれたら、とても授業になりませんから、字数制限しないと駄目みたいな感じです。これでやっていくと、自分の意見を発言し慣れていきますので、文章のレベルが上がっていきます。それは「よのなか科」の授業を受けている子の文章を見ていても分かります。しかもなおかつ学校でやる文章に絵文字なんて使えないし、絵文字でごまかせないから、何とか文章を打ってこようとするので、文章力が上がるということが起こるわけです。このようなわけで、一条高校では発信する子供たち、意見を言える子どもたちを育てて、その子どもたちの思考力、判断力、表現力を引き張り上げようという感じです。

これで処理力、編集力の感じがわかったと思うし、それからスマホがどれほど有効かというのも感じていただけたと思います。残念ながら小学生にスマホ



からこうやって打たせるのは、ちょっとやめておいたほうがよいかなと思うのですが、中学校は、10年以内にやってもよいのではないかと思います。もう無理だと思う。スマホを禁じるのは。高校は、全面展開が2020年ぐらいから図られると思うので、変なインテリジェントボードみたいなものを買う金があれば、Wi-Fiを設立するべきだと思います。この処理力、編集力について、だいたい整理がついたと思います。

では、最後のセッションで、この情報編集力を上げるための自分プレゼン術という、これ実は校長研修ではやりませんが、皆さんは、事務のほうから経営に関わっていく人なので、是非、この情報編集力を上げるためにこの練習を

していただくと、短期的に自分のコミュニケーションのレベルも上がるので、是非試してみてください。

今日は、自分の人間力を上げる、ここでいうこの基礎的人間力を上げながら、引っ張り出しながら、この編集力を磨いていく。自分のキャラクターをどう編集すると相手にもっと伝わりやすいかということ、練習したいわけです。最初にやっていただくのが、このキャッチフレーズ掴み型の自分プレゼン術で、隣にいる人、前後でもよいのですが、2人で組んでいただきます。隣の人がよく知っている人だったら避けてください。とにかく組んだら、初めましてです。次に、ほとんどの人が名刺を出すでしょう。名刺を出したときどうなるかということ、相手は情報を処理するわけです。「この学校のこの役職の人ね」で終わり。そこでキャラが伝わらなくなるのはもったいないので、名刺を出すのを我慢してもらい、自分のキャッチフレーズを何か言って。何か言って相手の意識を掴むという練習をしてほしいわけです。できたら今後の人生ずっとその練習をやってもらうと、どんどんうまくいきます。例えば私をぱっと見て、私ぐらいの世代の人だったら8割方は、「さだまさし」の映像若しくは画像が脳に入っているから、それをいじるだけで多分笑ってもらえる。そういう便利な顔を私が持っているから。これは顔という資産ですよ。とにかく顔がある有名人に似ているというのであれば、絶対使うべきです。顔をいじるだけで相手が警戒を解くわけだから。

最初の出会いで何が大事かという、人間というのは、やはり古い動物の脳を持っていて、意識していないと思うの



ですが、最初の15秒ぐらいで相手が敵か味方が見極めていきます。子どもなんて絶対にそうです、感覚として。けれども、人間はみんな社会性を持っているから、敵だと判断しても、よい人だとうなずきながら、そうですよねとか言いながら全然聞いてないということをやります。人間は、なかなかややこしい動物なので、最初に相手に敵だと思われたら損です。一番損なのです。これを二度目、三度目のミーティングでフォローしようとしたらとても大変。だから第一印象はすごく大事なので、最初にちゃんと相手の意識

を掴んで、自分の脳と相手の脳をつなげる、その度に何かできたら面白いことを言って意識を掴めて、そして自分を卑下して笑わせるというのが一番よい。つまり掴みが取れているので話しやすいし、笑っちゃった人は、そういう僕のそのあとの話が聞きやすいと思うのです。

次に使えるのは名前です。名前が難しく、読めないみたいな。それを読んでみせて。例えばこの名前は、山口県萩市で3軒しかなくて、大分に来たら1軒しかないとか、北九州で1人だけだと物語を語れば相手は警戒を解きます。分かりますか。上でもいいし、下をいじってもよいです。ちょっと名前を使えば相手が警戒を解きます。だから、皆さん頭を正解主義頭モードから情報編集モードにして、自分のキャラを編集して、何をこう出すと相手の意識を掴めるか、相手の様子を見ながらちょっと練習してほしいわけです。これは、練習すればするほどうまくいきます。気を付けていただきたいのは、今日から安易に名刺を出さない。やってみて、相手が、はあっという感じだったら、すかさず名刺を出す。要するに安パイがここにあれば、別に失うものはないのだから。うけたらすぐに会話に入っているのですよ。名刺なんかを出す必要がないですよ。もし連絡先を交換したいのであれば、別れ際に渡すのが一番かっこいいわけです。名刺に頼っていたら、会社や役職のブランドに頼っている人だと思われま。まだ学校の事務であれば、嫌味はないのだけれども、これが大手企業の役職がある人だったら、コミュニティで名刺を出すのは御法度です。例えば、お父さんであっても仕事の名刺は、PTAの場で、地域活動の場で、コミュニティの場で出すというのはすごく失礼なことだと思います。特に皆さんだってコミュニティをつかさどる人ではないですか。そういうところでは、素で勝負するという癖をつけてほしいということです。コミュニティで生活するようになれば、それが自分の武器にもなるのでお願いしたいと思います。

ちなみに、和田中は学校支援地域本部発祥の地です。私がある種発明をして、それを全国に広めて、伊吹文科大臣のときに50億の予算を取られたから、全国に広め、全部の学校に学校支援地域本部、今は地域学校協働本部ですが、その一番がコミュニティスクールになるわけです。和田中では、地域社会をまとめるのに、教頭がやるのではなくて

事務へ移しました。事務室のほうが入りやすいし、地域社会の人が職員室に入ろうとすると、先生方って結構何か変な目を向けたりします。慣れていない、地域社会の人が職員室に入ることに。私は徹底的にそれをやったので、何十人という人が職員室で昼に弁当を食べられるようになっていました。最初はそれがなかったので、PTAの会長が入っていくのでさえも、ギッと顔を見ていたということです。だとかくコミュニティというのはこういうことなので、この技術は、大事です。

最後にもう1個だけ。今の相手で、究極のコミュニケーションの練習をしてもらいます。何かというと、2分間の間、片方がどんどん質問をします。それで片方が答えてください。個人的な質問を言ってください。どんな失礼な質問も許します。2分間はもう無礼講。それはどういうことかという「離婚経験はありますか」もオッケー。そのかわり答えるほうの人には、答えるほうの人には特権があって、答えたくないことには答えなくてよいこと。それはパスみたいな感じで。何をやってほしいかという、2人の中で共通点を探ってもらいます。ただし、その共通点には条件があります。例えば、「あ、眼鏡かけている、眼鏡かけている、共通点」ってこれは低すぎ。もう少しレアなものを探してほしいわけです。つまり、全然、関係ないと思ってしゃべっていたら「えっ、小学校一緒なの」みたいに鳥肌立つみたいな。感動までいなくてもよいので、ふっとその話が出た瞬間「ああ、そうなの」みたいな感じで、2人でうれしくなるそういう共通点を2分間で、2個以上見つけてほしいのです。実は、ここまでプレストとかやっていて脳をつなげるって練習をしてきたので、どれくらい速く相手と脳がつながるのかという話です。つまり、同じ世界観をどういうふうに見つけるかの話なので、是非やってみてください。今皆さんがやっていたコミュニケーションこそが本当のコミュニケーションです。共通点を探ろうとするコミュニケーションです。コミュニケーションの語源で「コミナス」というラテン語がありますが、これ「コミュ」というのが付く英語は全部これが語源です。例えば、コミュニティ、コミュニオン、共同体。コミュニティは地域社会ですよ。それからコモンというのが、公共のという意味ですよ。コミュニズムって共産主義ですよ。みんなで共有

するってことですよ。つまりコムっていうのが付くのは、こういう共有するっていう意味なわけです。コミュニケーションって伝達するという意味ではないのですよ。これ、日本人は大変な勘違いしていて、伝達するではなくて、共有するために共有物を探るのがコミュニケーションですよ。是非、これ職場で縦横斜めにやれば、続々と絆が深まります。絆が見つかるからです。多分私が急がせたから、プラスモードのだけを皆さん探ったと思います。プラスモードだけってどういうことかという、興味のあるものとか得意なものとか好きなものでやったとおもいます。その後に実は2分、今度はマイナスモードだけでやるとよいですよ、本当は。今日は時間ないからやりませんが、例えば、挫折、コンプレックス、病気、失敗。細かいものでもよいのです。もちろん話したくないことは話す必要はないしとかくそういうものを話せるものは、乗り越えているでしょうから、それを交換したときに、例えば同じ病気にかかったことがあるとか、つまり皆さんもう分かると思おもいますが、プラスモードで共通点があるよりも、マイナスモードでぐっと共通点が発見されたときの絆のほうが絶対に深くなります。これがコミュニケーションの非常に不思議なところなのです。ということで、そういうことも含めて、職場で縦横無尽にやっていただくと、チームビルディングが図られるという話を最後にしておきます。

学校事務の仕事の話に戻れば、情報処理業務については、続々と機械化していったほうがよいに決まっています。IT



化するなり何なりと。例えば、一条高校ではタブレットを全教員に持たせていますが、それで職員会議の議事はそれでやっています。それ以前には、例えば1000人規模の学校なので、1回職員会議をやると1500枚の紙を使って刷っていましたがゼロになりました。去年の12月からは、職朝、朝の会議もタブレットでやるようにしたので、それまで紙で配って先生方の机上に10枚ぐらいのり、そして今まで10分かかっていたことがほとんど2分で終わるようになりました。そういうことを含めて、先生方がやっている事務業務も取り上げて、事務室がリーダーシップをとって、IT

化したほうが本当はよいのです。磨き上げるのはこの人間力の部分とそれから情報編集力です。課題を解決していくほうの力だということは、もう今日分かっていただいたのではないかと思います。

というようなわけで、どうですか、ちょっと今日元気になった気がしませんか。なぜかという、人間ってぐっと閉じこもっ



て情報処理モードで仕事をしていると、エネルギーを奪われるばかりなのです。編集モードで脳をつなげましたよね。そうすると、人間は電気放生物だから、エネルギー交換が行われて電気が入ってきます。そういうものなのです。だから事務の仕事、基本的に1人でこうやって左から右に速く処理することをやられると思います。それはもう本当に9割方、そういう仕事かもしれないけれども、それはやはりエネルギーを奪われる仕事ではあるのです。これはしょうがないことです。これは批判的に言っているのではなくて、これはしょうがないのです。一日に一回とか二回は、頭をこっちに持ってくる、そういう仲間つくっておいて、プレストをやるなり何なりしてチャットする中でエネルギーをもらいたいなそういう感じでエネルギー補てんをしながら、健康に気をつけて、仕事をしていただきたいなと思います。

#### <アンケートより>

- 子どもたちの将来、働き先があるのか、夢や希望を持って生きていける世の中なのか、親のほうに心配でしたが、なるほどそういう考え方をしたらいいのか、と学校事務職員としてより一人の親としてちょっと安心できる内容でした。
- これから生きていくための情報編集力は教育に関してもそうですが、学校経営等に参画していこうとする我々事務職員にもますます必要となっていく力ではないかと感じました。
- 藤原先生の講演は初めてだったのですが、とても充実した内容で、楽しく、聞きやすいと思いました。演題のとおり、10年後自分に仕事があるかどうかを真剣に考えることもできました。自分自身にとって大きく関わることで、今回の講演を受けることができ、本当によかったです。

## ◆ 第1分科会

第1分科会では、「チーム学校」？事務を「つかさどる」をテーマに、～みんなが幸せになる「働き方改革」について



考えよう～をサブテーマとして、シンポジウム形式で行われました。コーディネーターを先生の幸せ研究所・WLBC 関西の 澤田真弓 さんをお願いし、シンポジストとして、川崎町立鷹峰中学校校長 河野康世 先生、春日市教育委員会 教育総務担当 西 佑樹 氏、久留米市立青陵中学校事務 堀 典子 先生がそれぞれの立場で、チーム学校や働き方改革、「つかさどる」ための働き方の確立、子どもたちの教育条件整備など、国の緊急提言に関する内容で進められました。今回は、ファシリテーショングラフィックをおこない、話を見える化することで場が活性化し、また途中参加者が作業する場面もあり、今までにない分科会となりました。

#### <アンケートより>

- 「学校をつかさどる」なんて自分にそんな大層なことできるのか？と思っていました。最近、何となく仕事がつまらないとさえ思い始めていました。しかし、分科会に参加して、これなら自分にもできそうと思うことができました。ちょっとした気づきを周りに伝える等、小さな事からでも始めてみたいと思います。参加して良かったです。ありがとうございました。
- 事務職員の「働き方改革」について考えることが出来ました。今ある仕事にプラスして仕事を増やすのではなく、定型業務等は集中処理や組織化するなど効率化し、教育に関わる仕事をもっと増やしていくいわゆる仕事の「質」を高める働き方をしていかなければと改めて考えさせられました。
- 結局のところ職員間のコミュニケーションが不足していることのように思います。昔と比べて自分もそう思うし、問題解決の根っこかなと思います。
- コーディネーターの方の進行が上手でシンポジストの皆様の意見を引き出してあったので、大変充実した内容の分科会だったと思います。やはり色々な場面(学校・共同実施・事務研)で意見を出していくことは今から先は大事なことだと思いました。学校事務職員として初心に戻って頑張ろうと思えるよい研修会でした。

## ◆ 第2分科会

第2分科会は、今年度全事研京都大会で北九州支部が発表した内容のダイジェスト版が紹介されました。京都大会では、非常に好評な分科会で、今回も期待どおりの内容でした。新しい実践の第一歩として、より深く学校経営参画を行っていくための能力や行動を探求し、その手立てについて考え、これからの学校事務の目指す方向性についても示された感じがしました。



### <アンケートより>

- 作成したものについての詳しい説明や理論が続く内容かと構えていたが、どれも簡潔で洗練されたプレゼンと、フランクな発問など、どれも親しみやすい分科会だったと思います。大変参考になりました。
- 北九州市の発表は、取組内容と発表の展開において、大変良いものだった。分科会の運営、司会ともに洗練されていると感じました。しかし、事務職員全体としての取組による成果はどうか。全体のレベルアップ繋がっているのか、取組状況と成果の検証を行って頂きたいです。
- 北九州市支部の皆さんが、学校経営への参画レベルを向上させようと努力されている姿に感銘を受けました。政令市への給与負担の移譲を受けて庶務業務の効率化が図られたぶん、学校運営や教育活動によりいっそう関わっていこうとする姿は、これからの学校事務職員の目指すべき方向性を示しているように感じました。

## ◆ 第3分科会

第3分科会では、経験5年以下のための、実演ワークショップとして、「次世代型の学校事務職員ってどんなだろう？」というテーマで、志免中学校事務職員、木村淳さんにワークショップの楽しみ方と実演を行っていただきました。



ほとんどが若い事務職員ということで、気兼ねなく、和気藹々とした雰囲気での意見交換ができました。

来年度以降も若年者向けの分科会を開いて欲しいとの話が聞かれました。

### <アンケートより>

- なかなか同年代・同業種の方と話す機会が少ないので、とても貴重な時間を過ごせました。話しやすい雰囲気担当者がつくっていただき、初対面で緊張していましたが、討議しやすかったです。
- ワークショップ形式の研究大会に初めて参加させていただき、他県の先生と話す事が出来、今後の事務職員としてのあり方、将来像を考えることが出来大変有意義な時間を過ごすことができました。運営してくださった先生方本当にありがとうございました。スライドショー(パワーポイント)もこっていてとてもおもしろかったです。
- 経験年数5年目以下向けということで、気軽に参加することができました。実際の分科会でも特に緊張することなく、グループで自分の意見を話すことができ、今後も経験年数が浅い事務職員向けの分科会があれば参加させてもらいたいと思いました。

## 平成29年度 全事研セミナー報告

平成30年2月16日(金曜)に、東京都江東区のティアラこうとうにて全事研セミナーが開催されました。

### 文部科学省行政説明

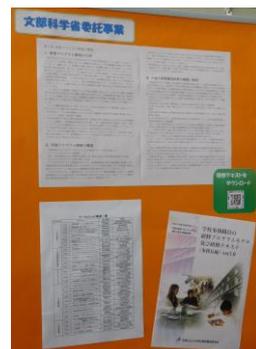
文部科学省大臣官房審議官(初等中等教育局担当)

白間 竜一郎 氏

学習指導要領の改訂を中心に、最新の教育行政、事務職員を巡る動向などの説明がありました。

まず事務職員を巡る動向として、「チーム学校」答申にある「事務体制の強化」、学校教育法の「事務をつかさどる」への改正、地教行法の共同学校事務室に関する条文の新設などについての説明がありました。

次に、学習指導要領の改訂については、今回の改訂の方向性として、社会に開かれた教育課程の実現を重視し、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようにするか」のトライアングルがポイントであるとのことでした。特に外国語教育



につきましては、セファール（CEFR）と呼ばれる国際基準をもとに、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「話すこと」「書くこと」という5つの領域別の目標を設定したとのことでした。また、プログラミング教育につきましては、プログラミングの体験を通して論理的思考力を身に付けることが狙いであるようです。

その他、教員の働き方改革や高大接続改革などの話があり、様々なアプローチを用いて学校のカリキュラム・マネジメントを推進し、学校の教育力の向上を図るような施策が話され、その中で、事務職員が果たす役割も大きくなっており、今回の学習指導要領改訂の意味や考え方をしっかり理解し、子どもたちの育ちに貢献できるような仕事をしていく必要性が示されました。

## 講義 I

「今後の学校組織開発の在り方とマネジメント力の向上」  
茨城大学大学院 教育学研究科 准教授

加藤 崇英 氏

事務職員のパワーアップのためにも、マネジメント力の向上を図る必要があるとの話でした。

そして、学校の組織開発や人材育成についての話では、組織は常に環境変化に対応しなければ存続できないとした上で、ただ絵に描いたような組織図ではなく、自分自身も育成するような仕組みを作らなければならないとの指摘がありました。

「チーム学校」では、教員だけのチームではないことを強調され、「事務をつかさどる」への改正は、期待値の表れであり、共同学校事務室については、まだやっていないことに、積極的関わっていく必要性を示されました。

学校事務の課題について、「つかさどる」への改正や共同学校事務室の規定によって制度的なことは一段落したという見方を示され、地域によって組織開発のデザインは異なるので、これからは地域としての独自性を明確化する必要があると問題提起され、事務職員の力量形成についても、これからは地域において制度や組織を使って



力量形成しなければならないし、「つかさどる」職務の力量への期待値は「従事する」とは明らかに違うと示されました。

その他、研修プログラムにおけるミドル期に関わる部分の充実、働き方改革に係る業務改善で事務職員が教員から「剥がした」業務を担っていくべき分野についていくつかの例示がされました。

最後に、キャリアステージによる力量形成課題の明確化、管理職との協働・協力関係の構築の必要性や、管理職によって学校事務職員の評価に大きなバラツキがあることの課題などについて言及され、これまで個業状態が中心となっていた事務職員も、学校組織の一員という自覚をもって学校経営に参画すべきであるということでした。

## 講義 II

パネルディスカッション

「新たなステージを歩む事務職員の責任と自覚」

文部科学省初等中等教育局財務課長 合田 哲雄 氏

茨城大学大学院教育学研究科 准教授 加藤 崇英 氏

豊橋市教育委員会教育部教育政策課

事務指導主事 風岡 治 氏

学校教育法における事務職員の職務規定が「事務をつかさどる」に改正されたことを念頭に、新しい時代を見据え、今後の事務職員の在り方についての討議がなされました。

「学校（組織）の在り方」「事務職員の現状」をテーマとした討議において、合田氏からは、文脈をとらえながら物事を理解する力など、AIにはない人間の力はまさに日本の教育が育ててきたものであること、そして日本の学校教育の良さを引き継ぐためにも、働き方改革が必要であり、効率化しながら教育の質を高めることが重要であること、などの話がありました。

加藤氏からは、教師の仕事は不確実性が高いといわれているが、事務職員の仕事は教師よりは確実性が高いといえること、そして教員の不確実性を支える事務職員の在り方を考えてよいのではないかと話されました。

風岡氏からは、ルーティンから脱して、非定型的な事柄に対してその都度判断できる共同実施になれるか、そしてやはり地域とともにある学校づくりへどのように参画す

るかが、今後の共同実施組織にとっての大きな課題であることを話されました。

「新たなステージを歩む事務職員の責任と自覚」をテーマとした討議におきましては、

合田氏から、社会に開かれた教育課程とはこれからの社会で子どもたちに必要な力とは何かを学校と地域が共有することである、そして事務職員が教科に縛られない横軸の視点から校長の経営を支えていく必要があると話されました。

加藤氏からは、共同実施の中に学校における業務改善の話を組み込んで、共同実施でしたことの恩恵が学校に帰っていくようであれば理解されないこと、そしてチーム学校への貢献を説明していくためには、管理職と一緒にやる仕事が理解されやすいのではないかと話されました。

風岡氏からは、事務職員としてのあるべき姿から考え、ギャップを埋めるために何をすればよいかを皆で共有することが必要であり、教育活動と条件整備を結びつけ、リソースマネジメントを行うためには、事務職員が主体的に教員と協働していかなければならないとのことでした。

**※5月の支部代表者会で、セミナーの報告予定です。**

## 北九州市立学校事務研究会研究大会

平成 29 年 1 月 26 日(金曜)  
黒崎ひびしんホールにて、第 11 回北九州市立学校事務研究会研究大会が開催されました。

大会テーマを「学びを深める学校事務の実践」とし、行政説明、講演、実践発表、講話、研究討議と盛りだくさんの内容でした。

講演では、文部科学省初等中等教育局参事官 木村直人氏が「業務改善と学校事務の役割」について話され、また実践発表では、政令市移管間もないなか、新しい事務への取り組みが紹介され、とても興味深い研究会でした。

また、北九州市の業務改善に関わる学校事務職員の実態についてテレビ局の取材も入り、北九州市の教員の業務改善に事務職員の担う重要な立場にあることを感じました。

来年度、第 12 回研究大会も開催が予定されています。今後

も目が離せない大会となりそうです。

### 来年度の予定

H 30	5	23	(水)	拡大研究推進委員会 (評議員会・支部代表者会)
H 30	6	27	(水)	支部研究担当者研修会 (第20回総会)
H 30	8	1	(水)	全事研千葉大会(~3日)
H 30	12	14	(金)	第21回研究大会

◇今回の会報も、昨年度と同様に研究大会の記事を中心に掲載しました。今回の研究大会は、12月に開催がもどり、また、講演に藤原和博氏お呼びしたこともあり、県外から多くの参加者がありました。全事研セミナーにつきましては、支部代表者会にて報告をさせていただきますので、支部代表者の方に、詳しい内容をお聞き下さい。

◇今回も北九州市の研究大会の参加報告を掲載しております。昨年8月の全事研大会の発表で、北九州市の取り組みは、全国的に有名となってきています。今回参加して、会長の取り組みのなかで校長がいない時の対応として「校長先生になった気持ちで考え、回答する」という言葉にとっても感銘を受け、学校内のよい繋がりを感じさせられました。また、職員の教材購入にあたり、事務室に教科書をおいて、教科書に近い教材を準備するという話もありました。とても参考になる話でした。

◇今回で私が担当する最後の会報となります。皆さんの意に沿った会報が出せなかったのではと反省ばかりです。これからも、本会への皆様のご協力の程、お願いいたします。

(文責 辺春)

